

「書物・出版と社会変容」研究会 活動記録

開催日・場所 報告者・報告タイトルなど

第一回 二〇〇三年八月二日 一橋大学職員集会所

若尾政希 「十八世紀日本の社会変容と書物」

小関悠一郎 「領主層における書物の受容と藩政改革―米沢藩を事例として」

高橋章則 「型紙と版本と―伊勢から東北にやってきたモノたち」

第二回 二〇〇三年九月十三日 一橋記念講堂

蝦名裕一 「盛岡藩における学問受容と政治抗争」

杉仁 「在村文化と書物・出版活動」

第三回 二〇〇三年十月四日 一橋大学職員集会所

引野亨輔 「近世日本の書物知と仏教諸宗」

高倉一紀 「伊勢の蔵書家―堀内広城の事例から」

第四回 二〇〇三年十二月二十日 一橋記念講堂

池田照寿 「『玉篇』写本・版本の漢字字体規範に関する研究」

工藤航平 「近世後期における村役人の情報収集・蓄積と行政能力の獲得について」

小川和也 「『藩知』概念の策定をめざして―近世中後期・越後長岡藩における「政治常識」の世界」

第五回 二〇〇四年一月十日 一橋記念講堂

栗野 宏 「初期活版印刷術の東西比較―技術の内在的論理をふまえた一考察」

白井 純 「キリシタン版落葉集と易林本節用集の字体注記―印刷方法との関連から」

小池淳一 「写本の意義―東北地方における民俗文化から」

第六回 二〇〇四年四月十日 一橋大学佐野書院

西村浩子 「古文書・古書籍にみられる角筆文字と角筆文献研究―忘れられた書記活動が遺したもの」

高野秀晴 「石門心学における出版活動と門人組織」

第七回 二〇〇四年五月八日 一橋大学佐野書院

佐藤貴裕 「節用集を使う人々―海民の例を中心に」

浅埜晴子 「景物本とその周辺について」

川平敏文 「近世における兼好像の変遷―南朝忠臣説を中心に」

第八回 二〇〇四年六月十二日 一橋大学佐野書院

磯部 敦 「明治一〇年代、活字翻刻本の地平」

竹松幸香 「近世後期加賀藩出版文化の諸相」

第九回 二〇〇四年七月二十四日 一橋大学職員集会所

一瀬千恵子 「日本と朝鮮における文禄・慶長の役に関する研究―『太閤記』と『壬辰録』を中心に」

鈴木俊幸 「書物流通史研究という方法、書物流通史研究の方法」

第十回 二〇〇四年九月十一日 一橋大学佐野書院

川島秀一 「ホンヨミの民俗」

杉 仁 「蚕書の改訂出版とその背景、蚕法論争と飼育実験―信州上塩尻村宝曆く寛政期『養蚕秘

書』と弘化く明治初期『養蚕教弘録』を中心に」

※「東アジア出版文化の研究」プロジェクト「印刷に関する技術史の諸相と資料保存の研究会」との合同研究会

第十一回 二〇〇四年十月二日 一橋大学職員集会所

高橋明彦 「近世藩版の書誌的調査一例」

高倉一紀 「伊勢〈射和文庫〉の蒐集活動と納本―幕末公開文庫における蔵書構築の実態」

第十二回 二〇〇四年十一月六日 一橋大学職員集会所

岩橋清美 「『新編武蔵風土記稿』編纂に見る歴史意識の相剋」

宮内貴久 「家相の学習とその実践者―山形県置賜地方を中心に」

第十三回 二〇〇四年十二月四日 一橋大学佐野書院

中嶋英介 「『武道初心集』の史的展開―松代版発行を中

心」

柏崎順子 「江戸版・上方版考」

第十四回 二〇〇五年一月八日 一橋大学職員集会所

高橋章則 「代官手代―地域文化の媒介者たち」

横田冬彦 「近世の軍書と〈歴史〉」

第十五回 二〇〇五年二月五日 一橋大学佐野書院

曾根原理 「『東照社縁起』の諸本―出版されなかったことの意味」

との意味」

桐原健真 「幕末志士の読書―吉田松陰の書籍貸借をめぐるつて」

第十六回 二〇〇五年四月九日 一橋大学職員集会所

小川和也 「牧民官の時代―近世における『牧民忠告』の展開・仁政から藩政へ」

富澤達三 「幕末江戸の時事錦絵」

第十七回 二〇〇五年五月十四日 一橋大学佐野書院

佐藤宏之 「『越後騒動物』諸本の研究―御家騒動物語研究序説」

究序説」

綱川歩美 「垂加神道思想の受容と書物―江戸垂加派を中心に」

杉 岳志 「彗星をめぐる〈書物の知〉とフォークロア」

第十八回 二〇〇五年六月四日 一橋大学佐野書院

福澤徹三 「農業雑誌の受容と実践―南多摩郡平尾村鈴木静藏の事例を中心に」

松本 望 「大坂代官の知的活動と読書―竹垣直道日記を素材に」

杉本史子 「沈黙の大地―幕末期、出版文化のなかの一覽

図」

第十九回 二〇〇五年九月十日 一橋大学佐野書院

福原敏男 「祭礼画像について―祭礼の摺物・番附を中心に」

亀川泰照 「祭礼番附考―江戸の祭礼を中心に」

皆川義孝 「御用留にみる嘉永四年の天下祭と摺物」

滝口正哉 「神田祭礼と納札文化―出版文化を支えた「中人以下」の世界」

※第一回 酖奇会

第二十回 二〇〇五年十月一日 一橋大学職員集会所

佐藤 温 「政治・商業・文事の交錯―大橋淡雅・大橋訥庵・菊池教中と幕末の文芸」

久野俊彦 「修験道聖教の形成―龍藏院〈福島県南会津郡只見町榑戸〉旧蔵書」

岩坪充雄 「和刻法帖について」

第二十一回 二〇〇五年十二月三日 一橋大学佐野書院

大沼美雄 「下野国黒羽藩主大関家の蔵書目録と近代への

蔵書の伝存」

杉 仁 「在村漢詩人とその出版活動―勢州四日市および

信州中野」

第二十二回 二〇〇六年一月七日 一橋大学佐野書院

小田貞裕 「村役人の国学受容と農書―宮負定雄の農政

論」

浅岡邦雄 「明治期輿付考」

※第二回 酖奇会